

## 令和3年度横須賀三浦地域首長懇談会の概要

開催日時 令和3年9月1日(水) 10時00分から12時00分

開催場所 災害対策本部室(県庁西庁舎6階)

### 出席者

市 町	県
横須賀市副市長 田中 茂	知 事 黒岩 祐治
鎌倉市長 松尾 崇	政策局副局長 浦邊 哲
逗子市長 桐ヶ谷 覚	くらし安全防災局長 花田 忠雄
三浦市長 吉田 英男	国際文化観光局長 香川 智佳子
葉山町長 山梨 崇仁	環境農政局長 鈴木 真由美
葉山町副町長 小野 淳	産業労働局長 野田 久義
	県土整備局長 大島 伸生
	横須賀三浦地域県政総合センター所長 能勢 祐二

## 概 要

### 1 開会

それでは、定刻になりましたので、ただいまから、令和3年度横須賀三浦地域首長懇談会を開催いたします。

私は、本日の司会を務めさせていただきます、横須賀三浦地域県政総合センター所長の能勢でございます。どうぞよろしくお願いたします。

本日の県側の出席者は、お手元に配付しました出席者名簿のとおりでございますので、紹介は省略させていただきます。また、本日の会議は、記者の方の取材は自由となっておりますので、ご承知お祈いたします。

本日の進行ですが、次第のとおり、最初に各市町の話題・課題等を議事とし、次に「官民連携によるエリアマネジメントについて」をテーマとした意見交換を行います。

本日の懇談会は12時までと限られた時間でございますが、皆様どうぞよろしくお願いたします

それでは、最初に黒岩知事から御挨拶申し上げます。

### 2 知事あいさつ

本日は大変お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

今、新型コロナウイルス感染症の中ですから、本来ならば皆さんと直接お目にかかってお話ししたかったですけれども、オンラインという形になりました。またこの対応のために、日程を変更させていただいたこと、お詫び申し上げます。

さて、このコロナの感染状況であります、一時期に比べれば、最近は前の週よりも減っているという状況が出てきておまして、5日連続減ってはきております。1週間単位で見ても、前の週よりも減っているという状況がやっと出てきたといったところではありますけれども、ただこれは、減少傾向に入ったかと言えば、まだまだはっきりそうは言えない感じだと思っております。

患者が増えていく時は、垂直のようにドンと増えていったのですけれども、この下がってくるといふ局面は、一応下がってはいるのですけれども、下がり方が非常に緩やかといったことでありました。昨日、全国知事会と田村厚生労働大臣とのWEB会議があったのですけれども、田村大臣も同じような認識を示されていて、この減少傾向に入ったとあって気を抜くような状態ではない。いつまたドンと増えるか分からないという状況だと、しかもこの9月1日からは学校が始まるころがたくさんあって、やはり生徒が動くというだけでも人流が増えると、そうすると患者が増える要素にもなりうるということでもありますので、まだまだ警戒が必要だといったことでもあります。

そんな中でこの子供たちに対するコロナ対策といったものを、しっかり強化していかなければならないといったところで、その面をいま全面に打ち出しているところであります。学校の通学といったものについても、県立の学校については3割を登校、そしてあとの7割はリモートといった形の分散登校、こういうことをしっかりやっていただきたいとお願いしているところであります。しばらくこの抑制状態を続けて、あとはこれを変えていくのは、なんといたってもワクチンがどれだけ進んでくるかといったことでもあります。皆さんに御協力いただきまして、ワクチン接種はじわりじわりと増えてきている状況の中で、なんとかして早く、皆さんのところにお届けをするといったことで、なんとかしてこの次のステージに向かいたいと思っているところであります。

さて、今開会しております東京パラリンピックでありますけれども、県内開催というのはありませんけれども、パラリンピック競技大会に向けて県内全市町村で、聖火のもととなる採火の御協力をいただきました。そして赤レンガ倉庫で、神奈川県集火・出立式を行いまして、「ともに生きる社会かながわの火」として東京へ送り出すことができました。今は連日熱い戦いが繰り広げられ、パラリンピックとはこんな大会だったのかと、初めて認識する人がたくさんいたという風に思います。安全安心な大会が最後までできるように、皆さんとしっかりと手を、力を合わせながら向き合っていきたいというふうに思っているところであります。

今回は、地域の課題、そして官民連携によるエリアマネジメントについて意見交換して、充実した時間を過ごしたいと思っております。限られた時間ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。私からは以上です。ありがとうございました。

### 3 要望

それでは、「各市町の話題・課題等」に入ります。進め方について、簡単にご説明をさせていただきます。まず、鎌倉市さんから建制順に、県への要望等をいただいた後に、県からまとめてコメントさせていただく方法で進めさせていただきたいと思っております。大変恐縮でございますが、ご発言は5分程度でお願いしたいと思います。

それでは、鎌倉市の松尾市長からお願いいたします。

#### 【鎌倉市長】

おはようございます。鎌倉市の松尾です。どうぞよろしくお願いいたします。黒岩知事をはじめ、神奈川県の皆さまには、本当に連日、コロナ対応をはじめ、様々な県政の課題に対応していただきすことをこの場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございます。早速、私の発表に入ります。

2ページ目のスライドをご覧ください。1点目の、プラスチックごみの海への流出を防ぐ取組みについてです。神奈川県はプラごみゼロ宣言に引き続きまして、鎌倉市もプラごみゼロ宣言をさせていただきましたけれども、海中ごみ、海岸漂着ごみの約7割が陸の生活の中で発生し、河川から海に流れ着いたものと言われています。2つの地図のとおり、河川の分布と人口分布は重なっていることから、河川流域に街が発展しています。そのため海岸に面した自治体だけではなくて、河川流域の自治

体も含めた広域的な連携による取組みが必要だというふうに考えます。

3 ページ目のスライドをご覧ください。プラスチックごみを、海に流出する前に回収することで、海流による広域への拡散の防止や、波などによる破碎・分散の防止など、効果的な発生抑制になると考えます。河川でのプラごみの回収に向けた新たな事例として、富山県の富山市やオランダのアムステルダム市の取組み等が事例としてあります。

4 ページ目のスライドをご覧ください。海岸に辿り着いたプラごみへの対応として、県内では、神奈川県及び相模湾に面した13の市町が、かながわ海岸美化財団に依頼して、海岸の清掃活動が行われています。この取組みは、海岸に面した自治体のみで行われるものであるため、河川流域も含めて、広域的に連携して対応する仕組みづくりが必要であると考えます。

5 ページ目のスライドをご覧ください。これまで挙げたような、発生してしまった後の対応ではなくて、発生抑制、さらには製品に含まれ、自然に飛散してしまうプラごみへの根本的な製造段階などでの対応策も必要であります。これは自治体だけでは困難な部分が多いので、プラごみの発生抑制につきましても、国レベル、さらには国際的な対応を含めた対策が必要であるため、県や国による積極的な関与が望まれるところです。県におかれましても、国への働きかけを含めて主導的な対応をしていただきたいということを要望いたします。

続いて2点目です。6 ページ目のスライドをご覧ください。防災分野におけるAIの活用についてです。ご案内のとおり、記憶に新しいところでは、令和元年9月の台風15号の被害、本市でも自衛隊の派遣を要請するというような被害が発生しました。さらに、近年、線状降水帯による大雨のように、年間を通じて災害が発生します。

7 ページ目のスライドをご覧ください。令和3年2月に開催されました、AI防災協議会におきましては、神奈川県と県下15市町を対象として、チャットボットを利用した、AI防災支援システムの訓練が実施されました。その結果、市民からの通報を瞬時に地図上に表示することが出来て、全市的な被害状況を早期に把握出来ること、また避難所の混雑状況、そこに至るまでの経路の安全性や被災状況などの情報を集約し、最適な避難所に誘導することが出来るなどの効果を確認することが出来ました。

8 ページ目のスライドをご覧ください。様々なテクノロジーの活用というところでございます。すでに逗子市さんで、センサーを活用した崖地対策の取組みなどは、私自身も大変興味をもって注目をさせていただいているところですが、民間の企業を始め、本当に新しいテクノロジーが様々出てくるなかで、個々に対応していくということよりも、近隣自治体との連携、情報共有、また広域での取組みなどが、非常に有効であると考えております。

9 ページ目のスライドをご覧ください。災害対策は、自治体共通の課題であり、また災害発生時には市境で対応が変わるようなことがあると、住民の混乱を招くことにも繋がるため、広域連携が重要になります。また様々な被害情報を、収集・蓄積していくことで、AIシステムの精度の向上が期待できます。AIシステムを最大限に活用するためには、システムを普及させること、普及したシステムが連携することが重要でありまして、その整備には、国や県による推進体制、後押しが不可欠であると考えます。県が中心となりまして、広域的に取組むとともに、国に対してしても必要な働き方をしていただけるよう、重ねて要望いたします。鎌倉市からは以上です。

#### **【横須賀三浦地域県政総合センター所長】**

有難うございました。続きまして、逗子市の桐ヶ谷市長、お願いいたします。

#### **【逗子市長】**

皆さん、おはようございます。逗子市長の桐ヶ谷でございます。よろしくお願ひいたします。

逗子市からは、市内の交通渋滞対策と、駅周辺の活性化ということでお話をさせていただきたいと思います。逗子市は本当に小さなまちでありまして、また平日夕方、特に土日は大変な交通渋滞に悩まされているところでもあります。この渋滞が慢性化しておりまして、暮らしに大きな障害が現れてきているところでもあります。

それでは2ページをお開きください。この地図は8月のある土曜日の18時ですけれども、その混雑状況であります。茶色や赤色は速度が遅いということを示しておりますけれども、駅周辺ではかなりの渋滞、我々地元に住んでいる人間は、もう通るのが嫌だと、どの道を抜けたら行けるかというふうに考えるぐらいであります。今この中におきまして、JR逗子駅の駅周辺でビルの建設が計画されており、これが複数ありまして、ここは建設もさることながら、交通渋滞をどう緩和できるのか、また歩行空間をどう確保していけるか。これは大きな、将来に渡る課題になるのかならないのか、大変なポイントだというふうに考えております。そこで、交通渋滞にも向けて、建設そのものがどのように影響するのか、そこを今年はしっかりと把握しながら建設の着手に向けて準備をしていきたいと考えているところでもあります。

3ページをお開きください。そもそも逗子の駅周辺ですけれども、駅というより市内がほぼほぼありますが、逗子をご案内の方はなるほどと思われるかもしれません。1つは海岸線の国道134号線、これは一般の方がよく通ります。大体渋滞しますので、渋滞を回避するために、鎌倉から葉山へ行くとするならば、逗子の市内を抜けて迂回しようという方が大変多くなります。そうしてこの市内の中心地が、渋滞に巻き込まれてくる。そういったことが一般的であります。例えば、信号機をどういうふうに連動させたら渋滞を緩和出来るのかとか、様々これから、県警等も協議しながら、解決を図っていききたいと考えているところでもあります。

最後、4ページになりますけれども、駅周辺、この3つに囲まれたエリアが逗子の商業地になります。それでこの3つの通りに囲まれた商業地内を、いかにして交通も歩行も快適に出来るか。私はこの駅周辺の三角地帯が、逗子の商業集積地になると考えておりまして、ここに向けた改革に取り組もうと考えているところでもあります。こういうためには、中心市街地活性化基本計画ですとか、立地適正化計画ですとか、そこを視野に入れながら進めてまいりますので、県の方とも調整をさせていただきたいと考えております。

またもう1点、山の根踏切、4種の無人踏切でした。先般ここを閉鎖するというので、だいぶ新聞記事にもなりました。ここは、過去にも3回死亡事故が発生しておりまして、直近では2年前に死亡事故がありました。それでも、そこは400人くらい通ると言われていますけれども、活用されている地域の方々からは、閉鎖については本当に反対ということで、非常に強い存続の要望がありました。結果的には、この8月20日でJRは閉鎖ということになりました。このまま収まるのか、また一歩乱あるのか、非常に微妙なところでもあります。今後は、これに近接する金沢新道踏切という、逗子駅の両側に大きい踏切が2つあります。鎌倉寄り、横須賀寄り、この横須賀寄りの踏切に、一日当たり400人ぐらいの方々が集中していきますので、やはりこの踏切の拡幅というものが、逗子にとっては重要なポイントだと思っております。これはJRさんと、また県道になりますので、県の方のご協力もご理解もいただきながら、安全で利便性の高い踏切を改善することが喫緊の課題と考えております。県の方にも、これはご理解とご協力をいただきたいと考えているところでもあります。以上で終わります。有難うございます。

#### 【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

有難うございました。続きまして、三浦市の吉田市長お願いいたします。

### 【三浦市長】

三浦市からは、2点のお話をさせていただきます。お手元の資料の2ページをご覧くださいと思いますが、まず水道についてでございます。これは神奈川県全域の地図ですけれど、三浦市の水道事業は、自己水源がございません。横須賀市をはじめ、神奈川県、横浜市、川崎市のご協力をいただいて、神奈川県内広域水道企業団の水を確保して、全量を受水に頼っております。大昔は三浦市に水源がありました。その関係で横須賀市さんと一緒に、この広域水道企業団に、横須賀市の下に入って受水を受けているという話になります。

ページを捲っていただきますと、県内の水道料金の比較でございます。この料金の比較ですが、1か月に20立方メートル、20立方メートルというちょっとイメージがわからないと思いますが、20トンの基本料金と従量料金で平均して比較をしています。そもそものお話をしますと、水道というのは電気やガスと一緒にです。つまりライフライン、人間の生活をする上で、必ず必要なものです。それだけが、自治体の運営になっている。そもそものところからお話をすると、時間が無くなってしまいますので、知事はこういうところを多分着目していただいて、水道の広域化について、推進をしていこうというスタイルにしているという話になります。

今この料金の比較を見ていただくと、三浦市は真鶴町に次いで、県内で2番目に高い料金になっています。これは全国平均から比較しますと、まだ安いのですが、神奈川県内の平均というのは、丹沢の水等に恵まれていますので、非常に低廉な価格で水道が賄われています。これから、今後のことを考えますと、人口減少に伴う料金収入の減少ですとか、施設の更新ですとか、様々な経費もかかります。そういった意味からは、三浦市も、この高い水道料金であるにも関わらず、大変厳しい環境になってきます。非常に長い間、水道料金の改定について、市民の皆さまともいろいろ議論をさせていただいているところであります。

水道は、この料金表を見ると、1立方メートル大体178円ぐらいです。ペットボトル1本買うと、お風呂に大体3~4回は入れるんです。つまり日本の水道は、安全でなおかつ低廉な価格で供給されています。それでも市町村によって格差が生まれている、この問題を是正してほしいというのが三浦市の願いです。首長の皆さんは、多分ご理解いただけると思います。

次のページです。水道事業に関する研究、検討は、平成18年からさせていただいています。私が市長にさせていただいたのが平成17年ですので、もう16年ずっとやっており、動き出したのはここ3、4年です。知事が広域的な水道の事業に着目していただいた頃からです。企業庁は水道事業者ですので、政策局の方に、水政室という、いわゆる水道事業に関する政策的な側面を検討する部署があります。そこに、企業庁の職員が行ってくれました。そこから大きな動きが徐々に広がってきたこととあります。県のご対応については、非常に感謝をしていますし、三浦市として、横須賀市さんとも連携をしながら、神奈川県に対して水道の広域化を進めていこうということをやらせていただいています。ただ横須賀市さんは、三浦市ほど困っていませんので、三浦市は、まずは県営水道への統合。鎌倉・逗子・葉山の皆さんは県営水道ですので、あまりこの問題はピンとこないかもしれませんが、三浦市としては非常に大きな課題として取り組ませていただいて、なおかつ、県の方でもご協力をいただいて、5ページにございます三浦市の水道ビジョンというものを作らせていただきました。これは県に、多大なお力をいただいた結果でございます。したがって、三浦市の水道事業と、県営水道との統合をなるべく早くお願いしたいということで、調整をさせていただいています。

次に、6ページになります。これは、三崎漁港の二町谷というところでございます。国際的な観光地づくりについてであります。これはイメージ図でございますが、三崎漁港の魅力を高める取組みとして、一大プロジェクトが今進んでいます。ここは三崎の埋め立て地でございますが、エスパシオミサキマリンリゾートという会社が、国家戦略特区を活用して国際的な経済活動拠点の形成を目指し、10年ぐらいのスパんで計画を進めています。漁港利用でございますので、県の方でもいろいろご協力

をいただきながら進めさせていただいています。引き続きご協力をお願いしたいということでございます。

次に、7ページでございます。これは三崎漁港のグランドデザイン、先程のお話と連携いたしますが、三崎漁港全体のグランドデザインを、もう一度見直そうというような動きでございます。

8ページを捲っていただきますと、この地図でございます、県漁港のゾーン、これを漁港の区域ですとか、観光と連携する区域、こういったもので三崎漁港の活性化を目指すゾーニングをしようということで、今、三浦市と神奈川県をはじめ、関係機関の皆さんともご協力をいただきながら進めさせていただいています。

次に、9ページでございます。逗子市長からもお話がございました、道路の問題は、三浦市にとっても大きな話でございます。三浦縦貫道路のⅡ期北側区間が、今年の8月に供用開始されまして、車の通行が大変増えています。コロナ禍とはいえ、三浦半島にお越しになるお客様は多々いらっしゃいまして、道路は活用されているということでございます。道路は、三浦市にとっては血管でございますので、半島の先端まで血がきちんと通うようなことを県の方でもご協力をいただきながら進めさせていただいています。

先日、県議会でも知事からご答弁をいただいています。三浦市は県との調整でいろいろ話を進めていますので、是非これからも、県と一緒に取組みを進めていきたいと思っています。以上でございます。

#### 【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

有難うございました。続きまして、葉山町の小野副町長、お願いいたします。

#### 【葉山町副町長】

おはようございます。葉山町副町長の小野と申します。よろしくお願ひいたします。

本日は、ただいま葉山の山梨町長が9月議会に向けての記者会見を行っておりまして、それが終了し次第、参加させていただきますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、私から説明をさせていただきます。横須賀三浦地域の首長懇談会の資料、葉山町の分をお開きいただいて、1ページをご覧くださいと思います。1ページにつきまして、今回お願い申し上げます全体像、道路の地図になってございます。真ん中の黒い線が三浦半島中央道でございます、現在開通している部分。これが北に向かって延長をお願いしたいということでございます。それから、左側ピンク色の部分が国道134号でございます、様々な課題があることでもお願いしております。

それでは、2ページをご覧くださいと思います。バスベイについてでございますが、お礼と継続でございますが、バスベイで行っていただいたもので、交通量が多いところにバスベイを作っただいて、この写真にある通りバスの停留場が交通の妨げにならないということで効果が出ているということで、お礼を申し上げたいところでございます。

続きまして3ページでございますが、このバスベイでございますが、今回土地の手当てが出来たということでございまして、これにつきまして、これから工事ということでバスベイを整備していただけるということで、お礼でございます。引き続きよろしくお願ひします。

続きまして4ページでございます。これにつきましては、今後の話でございますけれども、写真にございますとおり、左上の写真をご覧くださいのすけれども、歩道が非常に狭く通行量が多いということで、非常にバスの利用者が多いという状態でございます、場合によってはこのように、写真にある通り、車道を歩かないと通行ができないような状況、大変危険な状況であるということで、課題となっている場所でございますが、その右の写真を見ていただきますと、ちょうど真ん中あ

たり、土地が少し空いているところがございますが、ちょうどそれが今、取り壊されたということで更地になってございまして、ちょうど今タイミングがいいということで、町といたしましても、実現に向けまして、地元との調整をしておりますので、これにつきましては引き続き実現に向けてご協力をお願いしたいと思います。

続きまして5ページをご覧いただきたいのですが、これが三浦半島中央道北側区間ということで、南郷トンネルから交差点を見た写真でございますけれども、突き当たりがT字路になってございまして、右に入りますと逗葉新道から横浜横須賀道路、左に入りますと鎌倉・逗子の交差点入ります。交通量が多いということで、常に渋滞が発生している状況でございます。

6ページをご覧いただきたいのですが、6ページにつきましてはこの交差点を鎌倉・逗子側から見た図でございまして、これまた右折車両が大変多いということで、常日頃渋滞が生じている場所でございます。

次の7ページが、同じ場所を反対に向かったところでございますが、この渋滞がずっと長らく続いているというような状況でございます。

続きまして8ページをご覧いただきたいのですが、それにつきまして当初お話いたしました、三浦半島中央道北側区間の整理ということでございまして、これまで取組みをさせていただいたのですが、コロナ禍ということで地元の説明会を集まって開催することがなかなか難しいというようなことがございまして、資料の戸別配布等をしてまいりました。この8ページの資料の一番下にございますけれども、今年、先々月の7月に県にご協力をいただきまして、地元の方に向けての説明会、オープンハウスということで葉山ステーションの会議室を使いまして、そこに県で作っていただいた資料、パネル展示をいたしまして、希望の方に来ていただいて、疑問点等をお聞きするような場を設けさせていただきました。延べ30人ほどの地元の方に来ていただいて、ご意見等をいただきました。

このような状況でございますけれども、北側の開通につきまして、町長も申し上げておりますけれども、開通については悲願ということもあり、ぜひ引き続き対応をお願いしたいということでございます。よろしく願いいたします。

次は9ページでございますけれども、電柱の無電柱化ということでございまして、この図にございますように、国道134号線、逗葉新道からの県道311号、大きなところでございますけれども、これにつきましては無電柱化というところでございます。具体的には10ページをご覧いただきたいのですが、電柱の無電柱化ということで写真は御用邸に向かう道路、134号線でございますけれども、非常に歩道も狭く、電柱が乱立しているということで、この歩道につきましては、緊急輸送道路にもなっているということでございまして、無電柱化をお願いしたいところでございます。

次の11ページの無電柱化ですが、非常に狭い歩道がございます。乳母車も通行出来ないような狭い状況になっているということで、これにつきましても、無電柱化をお願いしたいという状況でございます。

最後になりますが、12ページでございます。車道でございます、グレーチング排水溝でございますけれども、この排水溝の幅、今サイクリング中の自転車、細いタイヤのサイクリング自転車が多いということで、この穴にタイヤが挟まって事故というのも起きている状況でございます。これにつきまして、お願いしまして、すでに各所で目の細かいグレーチングに対応していただいているところでございまして、非常に交通安全に役立っているということで、引き続きこのグレーチングの交換についても対応していただくようお願いいたします。葉山町からは以上でございます。よろしく願いいたします。

**【横須賀三浦地域県政総合センター所長】**

有難うございました。それでは、各市町からのご発言に対しまして、県からご説明・回答等をさせていただきます。まず政策局副局长、発言をお願いいたします

**【政策局副局长】**

政策局副局长の浦邊でございます。政策局関係につきましては、三浦市吉田市長から、三浦市水道事業につきましてお話がございました。先般、三浦市が作成しました、三浦市水道ビジョンでは、県営水道との統合を将来的な理想像として位置付けておりますが、水道事業の統合は、給水区域内に整備された水道管等の資産や、施設整備にかかる負債の取り扱いなど、難しい課題もございまして、それぞれの経営が健全であることが前提となります。統合の議論を進めるには、何よりもまず、経営の安定化を図ることが必要であります。こうした中、このビジョンで水道料金の値上げが明記されましたことは、経営安定化に向けた三浦市の決意の表れであると受け止めておるところでございます。

県としては、こうした市の思いに応えられるよう、まずはビジョンの計画期間である、今後10年間の、三浦市水道事業の経営安定化に関する取組みに対し、市の要請に応じた支援を実施してまいります。また県営水道との統合につきましては、多様な広域連携を目指す、神奈川水道実現の一環として、企業庁と関係機関とともに、研究を進めてまいります。水道広域化推進プランについては、神奈川県水道事業広域連携調整会議を6月に設置したところございまして、プランの具体的内容について、県内全ての水道事業者の皆さまの意見を丁寧に向いながら作成してまいります。私からは以上でございます。

**【横須賀三浦地域県政総合センター所長】**

次に、くらし安全防災局長、お願いいたします。

**【くらし安全防災局長】**

はい、くらし安全防災局長の花田でございます。松尾市長さんから、防災分野のAIにおける活用についてお話をいただきました。県では、AI防災協議会と連携をいたしまして、今年2月に鎌倉市をはじめ多くの市町村のご参加をいただきまして、LINEを活用した防災チャットボットによって被害情報を収集したり、あるいはAIによる避難誘導支援、こういったものを行う実証実験を行いました。この防災チャットボットについては、年度内にプロトタイプを公開出来るように、現在市町村から様々な基礎データをいただきながら、AI防災協議会と一緒に取り組んでいるところでございます。

この防災チャットボットですが、内閣府が主導しております戦略的イノベーション創造プログラム、いわゆるSIP計画で取り組まれている分野の一つでございまして、本県が先駆けて取り組んだこの成果も踏まえまして、最終的には国が全国展開をしていくという見込みになっております。

現在市町村では、避難所の混雑状況を可視化する、たとえばVACANといったようなシステムを導入するなど、市町村でも独自の取組みが進められておりまして、防災分野におけるAIの活用、これはもう今後不可欠になってまいりますので、県としても引き続き市町村と連携しながら取組みを進めていきたいと考えています。なお、全国知事会の危機管理防災特別委員会の委員長が黒岩知事でございますので、黒岩知事の方からも、国に対しては防災におけるDXの推進ですとか、AIを活用した災害対応、これを強く推進するように、防災担当大臣に要望するなど、国に対しては強く要望しているところでございます。以上でございます。

**【横須賀三浦地域県政総合センター所長】**

次に、国際文化観光局長、お願いいたします。

### 【国際文化観光局長】

はい、国際文化観光局長の香川でございます。よろしくお願いいたします。

三浦市長から、国際的な観光地づくりというご発言がありましたので、一言申し上げます。三浦市に関しましては、県で、城ヶ島・三崎地域を「新たな観光の核づくり地域」に位置付けまして、三浦市を中心とした取組みに支援を行ってきたところでございます。

市長のお話にございました、二町谷地区につきましては、二町谷北公園がございまして、これがお話にありました、エスパシオミサキマリンリゾート(株)の高級リゾートの計画地と、スーパーヨットを誘致する浮棧橋との間にある公園でございまして、そちらの方の整備を、観光の核づくり推進補助金により昨年度、それから今年度と支援させていただくようなことになってございます。三崎の整備の方、これからもご協力させていただきたいと思っておりますし、三崎も城ヶ島も様々な取組みが進んでおりますので、県としましても連携させていただき、情報を共有させていただいて、情報発信などもご協力させていただきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。以上です。

### 【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

次に、環境農政局長、よろしくお願いいたします。

### 【環境農政局長】

環境農政局長の鈴木でございます。いつもお世話になっております。どうぞよろしくお願いいたします。

まず最初に、鎌倉市長さんからお話をいただきました、プラスチックごみの海への流出を防ぐバブルバリアの設置に関連してでございます。県内でも藤沢市の境川で川の中にごみの回収施設を設置している事例はございますけれども、集まるごみの7割以上は草や木ということでございまして、河川敷等のプラごみが流れ出る豪雨の際には、河川の流量が多くなりますために、回収出来ないといったような課題がございます。そのため、河川から海へのプラごみの流出を防ぐには、河川敷等でのクリーン活動を推進していくことが、重要であると考えてございます。

今後、県では、河川敷で清掃活動を行っている市民団体等の取組みを支援しまして、連携を強化するというこのために、特に若年層の方々にクリーン活動に多く参加してもらえるように、コミュニケーションアプリを活用した情報発信を新たに行いたいと考えてございます。

また、自治体が行う清掃活動をさらに充実するため、河川敷の清掃活動についても、海岸の清掃と同様に補助対象となるよう、引き続き国に要望してまいりたいと思っておりますので、今後ともどうぞ連携をお願いしてまいりたいと思っております。

次に、三浦市長さんの方からお話をいただきました、国際的な観光地づくりの取組みについてでございます。県ではこれまで、昨年城ヶ島大橋の渡橋料を無料化するなど、三崎漁港の魅力を高める取組みとして支援をしてまいりました。今後も環境農政の関連の視点からも、三浦市さんの目指す「三崎漁港グランドデザイン」の策定、それから「アクションプラン」の作成について助言・協力させていただくとともに、三崎漁港を中心とした地域活性化にも、三浦市さんと連携して取組んでまいりたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。私からは以上です。

### 【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

次に、産業労働局長、よろしくお願いいたします。

### 【産業労働局長】

産業労働局長の野田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

逗子市長さんからお話がありました、市内の交通渋滞対策と、駅周辺の活性化の関係でございます。市長さんの方から、今後、中心市街地活性化基本計画の策定を検討されるというお話がありました。中心市街地活性化法という法律では、県は、市町村が定めます計画の、円滑かつ確実な実施に関し必要な助言を行うというふうにされております。このため、産業労働局を窓口といたしまして、庁内関係部局による協議会を設置しているところでございます。

今後逗子市さんの方で、計画を策定される段階、また計画を策定した後、国に認定される段階、実行していくそれぞれの段階において、県に対してご要望等ございましたら、県にご相談いただければというふうに考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

#### 【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

最後になります。県土整備局長、お願いいたします。

#### 【県土整備局長】

はい、県土整備局長の大島です。よろしくお願いいたします。

逗子市さんから何点かお話ございました。まず渋滞対策についてお話ございました。渋滞対策が喫緊の課題だということでございます。渋滞解消に向けて調査を実施されるということでございますが、県でもこれまで様々、渋滞に関する調査を行っておりますので、データの手持ちもございます。ですから、ご相談いただければそういったデータの蓄積もご提供できますので、ご相談頂きたいと思っております。また調査結果を踏まえ、対応策を検討される際には、どうしても広域的な検討が必要になると思いますので、市の取り組みをお話いただければ、ご協力させていただきたいと思っております。

それから、逗子駅周辺についてご要望がございました。JR逗子駅の民間ビルの建て替え、そのビルと駅を接続するような自由通路の整備、こういったものを計画されているということで、すでに逗子市さんから3回ほどご相談を預かっている状態だと伺っています。これから計画が具体化して整備を行う際には、適用可能な補助の制度もありそうですので、その際には国としっかりと調整をしておりますので、早い段階からご相談をいただければと考えております。

続きまして、三浦市さんから、道路の整備についてご要望をいただきました。主に西海岸線とそれから三浦縦貫道路の残る区間だと思いますが、西海岸線につきましては、豊かな自然が残る小網代湾を通りますので、どうしてもここの橋梁が、しっかりと、環境それから景観と調和するような計画としていくことが必要であります。地域の方々のご理解がどうしても不可欠な事業でございます。

これまでも、周辺の環境調査、それから橋梁の比較設計などもすでに行っておりまして、湾内にどうしても橋脚を立てる必要があることも想定しまして、湾内の海域の調査等も行っております。今年度はこうした調査に基づきまして、専門家の意見も伺いながら、地域のご意向も伺った上で、橋梁形式を選定していきたいと考えております。こうした段階を経た上で、次には詳細設計を行い、順調にいけば令和5年度には、用地取得に向けた測量などの事業に着手をしていきたいと考えておりますので、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

それから、三浦縦貫道路Ⅱ期の残る区間でございます。この区間も一刻も早く着手し完成したいと思っておりますが、現在建設事業費を少し削減する方向で、いかにしたら削減出来るかというような検討を進めております。今後の進め方、接続道路等もございますので、三浦市さんとよく相談をさせていただきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

続きまして、葉山町さんから何件かご要望をいただきました。まず道路の関係、三浦半島中央道路の北側区間でございます。資料でもご説明がございましたが、かねてより地元の反対が根強い地区でございまして、昨年度、事業の効果や必要性などを説明資料にしたためまして、各戸配布させていた

だいて、改めて地元の意向を確認させていただきました。その結果、やはりまだ、賛成意見もある一方で、地盤沈下や交通集中による渋滞等への懸念から、反対の声が依然としてございました。

こうしたことを受けまして、この7月にはトンネルを計画している上部の方々を対象に、先程ご説明もございましたが、オープンハウス方式の相談会を開催いたしまして、来場された方々に丁寧な説明をさせていただきました。しかしながらやはり、地盤沈下のご懸念等々から、生活環境の変化に対する懸念の声がございました。事業推進には地元のご理解が欠かせませんので、今年度は地元の方々の懸念を払拭するためにも、地質調査などをまず実施いたしまして、その結果をお示しして、地盤の状態等を地域の方々にもよくご理解いただいた上で、引き続き対話を継続していきたいと思っております。ご理解いただけるまで粘り強く取り組んでまいりますので、引き続き葉山町さん、逗子市さんにおかれましてはご協力をよろしくお願ひしたいと思っております。

それからバスベイの設置について、ご要望いただきました。葉山町の国道県道は、非常に交通量が多いわりに幅員も狭いということで、バスをお待ちの方が苦勞されているという情景は、よく理解しております。なかなか用地を取得することが難しい中で、これまでも葉山町さんにはご尽力いただいて、家屋が移転する際、道路に面した土地の一部を譲っていただくことですか、あるいは町有地を譲っていただくとか、様々なご協力をいただいてきたところです。資料にもございましたが、旧役場前のバスベイはすでに設置が終わりましたし、今年度は向原バス停において設置が完了する予定でございます。引き続きご協力が欠かせませんので、よろしくお願ひしたいと思っております。

それから最後に、無電柱化についてですが、無電柱化事業で電線類を埋設するというので、幅の比較的広い歩道がどうしても必要でございます。葉山町の県管理道路は非常に幅員が狭いということで、道路下に入れる場合、かなり苦勞いたします。最近では小型ボックスを活用したような埋設の方法ですか、あるいは表通りではなく一本裏側の通りに埋設するか、いろいろなやり方の工夫も功をなされておりますので、新しいこうした事業手法も実用化に向けて少し検討してまいりますので、個々の箇所についてどのようなやり方が適切かということについて、葉山町さんともよく調整をさせていただきたいと思っております。

グレーチングの話が最後ございましたが、自転車がつっかかりにならないような対応は可能でございますので、具体的な場所を教えてくださいましたら、即刻対応していきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。私からの説明は以上でございます。

#### 【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

これまでの県の回答に関しまして、何かありましたら、ご発言をお願いいたします。

よろしいですか。各市町からのご発言はよろしいでしょうか。では、以上で各市町からの「話題・課題等」につきましては終了とさせていただきます。と思います。

## 4 意見交換

#### 【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

次に、意見交換、テーマ「官民連携によるエリアマネジメントについて」に入りたいと思います。本日のテーマは「官民連携によるエリアマネジメントについて」でございますが、まず各市町、町長等からテーマに関するご発言をいただきます。恐縮ですが、建制順で一人様5分程度ずつご発言いただきたいと思います。それでははじめに、横須賀市の田中副市長、お願ひいたします。

#### 【横須賀市長】

代理の、副市長の田中でございます。よろしくお願ひいたします。私からは、官民連携によるエリアマネジメントが進んでいる、横須賀市追浜駅周辺の事例をお話させていただきます。

ページをお捲りください。横須賀市ではスポーツによるまちづくりを推進しており、その核として、令和元年度に、DOCK OF BAYSTARS YOKOSUKAが完成しました。これは、横須賀市とベイスターズとの、官民連携による役割分担により実現したものです。練習グラウンドは、その形状など、横浜スタジアムを忠実に再現しており、目の前には選手寮も備えています。また市民には、グラウンドを開放し、プロ野球選手と同じ場所で練習が出来るなど、追浜の顔となる練習拠点、交流拠点となっています。

ページをお捲りください。そして練習場の整備をきっかけに、ベイスターズと京浜急行電鉄、横須賀市による、三者連携に関する基本協定を締結いたしました。この協定により、本来企業のスポンサー等の問題で、クリアできなかった連携が図れるようになり、写真にあるような駅名看板の装飾など、様々な官民連携が実現しています。

ページをお捲りください。また地域が一丸となって、街全体を盛り上げるため、地域の自治組織内にベイスターズ検討部会を設置し、官民連携によりベイスターズを活かしたまちづくりを検討しました。その結果、地元商店街とも連携した、始球式への参加などが当たるスタンプラリーや、イベントを開催し、さらなるエリアマネジメントを推進いたしました。そして地域の雰囲気作りも意識し、駅から横須賀スタジアムまでの道のりに、ベイスターズ仕様の電柱ラッピングや巨大壁面装飾を行いました。

ページをお捲りください。次に追浜駅前再開発です。追浜では、都市計画決定から42年、各種調整が整わず事業が未着手であった再開発が、ついに動き出しました。これは民間が主体の再開発になりますが、国や県にもご協力いただき、市も補助金をはじめ、様々な支援を行っています。また駅前の好立地であるため、公共施設の再配置や市民サービスの向上を考え、駅と直結するペDESTリアンデッキや、図書館、駐輪場の導入を予定しております。特に横須賀市では初めてとなる、駅に直結する図書館整備においては、回遊性向上のほか、シャワー効果なども見込まれさらなる賑わいに出来ると考えております。

ページをお捲りください。こちらは今年の3月に国と市がともに連携した、追浜駅の交通結節点整備事業計画となります。これは国が進めるバスタプロジェクトの一環で、先導的モデルとなる、日本初の地域密着型バスタを整備するものです。この事業計画の策定では、産学官連携による検討会において、多くの皆様の豊富な知識と経験により議論を重ねる一方で、地域の声も直接計画に反映出来るよう、地元まちづくり検討会を設けました。まさに、産学官民による連携を図った事業計画です。また都市計画決定から30年、悲願であった 国道357号の横須賀市への延伸もついに着手となりました。この事業により三浦半島の交通環境の改善が大きく期待できます。

ページをお捲りください。このように追浜の街は、今過去に例を見ないほど大きく動き出しています。そこで地域の皆様とともに、一体的なまちづくりを推進するため、一緒に描く10年後の未来としてグラウンドデザインを策定しました。策定にあたっては、グループワーク手法を用いた地域懇談会を開催し、多世代にわたる105名の方々にご参加いただき、そこでいただいた426件全てのご意見を反映いたしました。

ページをお捲りください。最後に、これからのエリアマネジメントです。今後のまちづくりは、行政主導ではなく、地域に関わる様々な人たちを含めた、産学官民による連携が必要不可欠であり、将来的な運営管理など、整備後のエリアマネジメントを見据えた、連携体制を構築するため、追浜ではえき・まち・みちデザインセンターを設置する予定です。これにより施策を総動員体制で考えていくことが出来、地域の特徴を活かした、地元根付いた真の未来創造型のまちづくりが叶うものと考えております。

ページをお捲りください。このように横須賀市では、多くの関係者の皆さまのご理解とご協力を得ながら、官民連携を推進してまいります。今後令和4年度から実施する、次の実施計画において

も、ハード・ソフト、様々な分野で、引き続き官民連携によるエリアマネジメントを推進し、さらなる市政発展を目指して行政運営を行ってまいります。以上です。ご清聴有難うございました。

#### 【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

有難うございました。続きまして、鎌倉市の松尾市長、お願いいたします。

#### 【鎌倉市長】

よろしくお願いいたします。まず1ページ目のスライドをご覧ください。

鎌倉市の今泉台という住宅地がありますが、こちらは高齢化率が40%を超え、空き家も増えてきていまして、地域がどんどん衰退していくということが課題になっている地域でした。そこに対して、何らか有効な手段がないかということで、鎌倉リビングラボという取組みを実施しています。リビングラボというのはご案内のとおり、北欧で活発に行われている仕組みで、産官学民が垣根を越えて、様々な課題を解決するという手法です。

実際に地域の方々に、高齢化した住宅をどうしていくかという話もそうですが、具体的に民間企業の家具メーカーから、例えばテレワーク、家で仕事をするにあたって、どういう環境を作ったらいいかという課題をいただき、それを産官学民で議論をして、商品を作っていく、という取組みをさせていただきました。そうした取組みが大変好評でして、今、様々な企業から鎌倉リビングラボでこういう商品を作りたいという相談、実証実験の相談がきています。先進国であるスウェーデンの国王が視察に来られるなど注目が高まり、住民間でも、誇りに感じられるような、すばらしい取組みになりました。

そして2ページ目は、カマコンという取組みになります。これは地域の方たちが、鎌倉をもっとこういう風によくしていきたいという提案を自由にして、それをみんなで応援する取組みです。議論をするということよりも、前向きな意見を出し合うという場で、先程横須賀市さんのワークショップの中にもありましたけれども、非難をしないとか否定をしないとかを大切にしながら、みんなでよりよく未来を創っていこうという場になっています。

3ページ目をご覧ください。こちらはFabLab鎌倉というものですけれども、3Dプリンターや3Dスキャナーという新しいテクノロジーを活用して、地域の課題の解決に取り組みます。例えば、サーフボードとその先端につけるセンサーをFabLabで作って、サーフィンをしながら海にどういごみがあるのかということ調査したりとか、赤ちゃんをチャイルドシートに座らせると必ず泣いてしまうので、締めると赤ちゃんが好きな音楽が流れ、赤ちゃんが泣きやむシートベルトを作るなど、たくさんはいらなくても、ニーズニーズに応じた課題解決につながる製品を手作りで出来るというところが、このFabLabの魅力なのかなと思います。

そして4ページ目は、まちの社員食堂です。まちのシリーズというふうに我々は呼んでいるのですが、商工会議所や観光協会、また鎌倉駅周辺の企業さん、皆で連携して運営しているものです。鎌倉でお昼ご飯を食べようとする1500円とか2000円とか、観光客料金になってしまうので、もう少し安くお昼を食べられないかということで皆でお金を出し合いながら、このまちで働く人のための社員食堂を運営しています。この魅力というのは、ここに来る人は皆、鎌倉で働いているということなんです。そういうことで、自然と知らない人と会話が生まれたり、またその会話の中から新しいアイデアが生まれたり、事業に発展したりというようなことがあったりして、地域の人たちを結ぶ一つの仕掛けとして作っているものでございます。

5ページ目をご覧ください。こちらは、神奈川県さんが若者層向けの企業支援の拠点として、設置をいただいたHASTU鎌倉でございます。このHASTU鎌倉が、この地域の中の活動の核となっているということで、今、非常にいい役割を果たしていただいています。このHASTU鎌倉のような、地域に

根差して、社会課題を地域とともに解決していく仕組みが、地域主体のまちづくりの推進力となるものと、大変期待をしているところです。HASTU鎌倉が、短期間に多くの、これだけの実績をあげられているというのは、もちろん神奈川県さんの尽力によるところが大きいのですが、地域住民のこれまでの横の繋がりや地域愛といったものに支えられた活動が根付いているということも、一つ大きな要因なのかと思っています。ですので、今後もこのHASTU鎌倉につきまして、県の専門的なご支援というところも必要だと思っておりますので、引き続きここにつきましてはご支援いただくことを要望させていただいて、街全体としてもエリアマネジメントの取組みをしっかりと進めていきたいと思っております。鎌倉市は以上です。有難うございました。

#### 【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

有難うございました。続きまして、逗子市の桐ヶ谷市長、お願いいたします。

#### 【逗子市長】

逗子市には、現在エリアマネジメントというのは行われておりませんので、今日は官民連携に焦点を当てた逗子市の取組みをご紹介します。

私が就任しまして、どうやって地域経済に民間活力を引き込んでいこうかということで、platform ZUSHI BIZを立ち上げました。その時は、慶応大学の島津先生にもご協力いただきまして、ワーケーションを逗子市の特徴にしようではないかというご提案を頂戴しました。しかしそのタイミングでは、ワーケーションというのはそもそも、和歌山や軽井沢といったところで名を上げておりましたので、果たして逗子は該当するのかと聞いていたぐらいです。しかしその後コロナ禍になりまして、いきなり長期の移動が出来なくなる環境が昨年から生まれてきました。そうしましたら、首都圏から近い距離で、海あり山ありという逗子の魅力を訴えるには、ワーケーションがぴったりという環境が生まれてきました。

現実には、まずは逗子にそういった機会であらわれて、逗子のまちを見てみたら、都心からも近く暮らしやすそうだということから、現在、移住が増えてきました。不動産の物件でも、売るのがないというぐらいの状況とも聞いております。そんなことで、逗子市としてはまず、その企業さんや働いている方々向けに、“お気軽ワーケーション”として逗子に足を運んでもらい、そして逗子のまちの魅力を少し知ってもらって、それから住まいとしてどうなのかということを考えていただく。そんな取組みにしたいと考えております。ご存知のように、逗子はベッドタウンですので、広大な土地があって企業を誘致出来るという、そういうスペースは全くない。本当に住宅のまち。その中で、このワーケーションが企業誘致や移住の一つのきっかけになればと思っております。

2ページをご覧ください。これは戸田建設さんと連携して、逗子市所有の遊休不動産を活用したワーケーションの実証実験です。開始した頃が、ちょうどコロナ禍の始まりと重なってしまいまして、なかなか思うように実証実験が進まないところがございますから、期間を延長しながら現在進めているところです。

3ページ目をご覧ください。これは、「遊ぶ広報プロジェクト」というもので、2020年度に県の産業労働局が実施しました、ベンチャー支援プロジェクトに採択されたものです。逗子市で実施していただきました。これはワーケーションを体験される方を、主催者がアテンドして逗子のまちを、またスポットを見ていただくという、こんな体験型モニターでありました。実際にこれに参加した後、逗子に約1か月ぐらい、その方個人で長期に滞在された方がいました。そしてその人は今逗子に移住されました。そういった意味ではきっかけづくり、これが非常に大事かというふうにも思います。

次に、4ページをご覧ください。これは、逗子のワーケーションを紹介する冊子も作りました。マリン事業者またはワークスペース事業者、今逗子では8カ所ほどでワーケーションが出来る十分な場

所がございます。コワーキングスペースですね、そういったところを含めていろいろ紹介をしているところなんです。実際にこういう冊子から、東京の方から行ってみよう。逗子に来られて、ワーケーションを楽しんだというご報告もいただいております。

5ページになります。これは今、コロナでなかなかリアルな集会というのが非常に難しいことから、ワーケーションウェビナーを開催しました。これまでに2度ほどやりました。少しでも逗子に関心を持っていただきながら、ワーケーションを実施していただきたいという取組みにしております。1回目のウェビナーでは58名ご参加いただきました。あと、こういったワーケーションの取り組みがメディアにも取り上げられています。

7ページでございます。それで、つい先日、オンラインワーケーションツアーを行いましたけれども、この秋には実際に逗子に来ていただこうと、体験宿泊型のツアーを実施することといたしました。これは県の「新しい生活様式」推進事業補助金というものを活用させていただきました。これによりまして、秋に1泊2日でワーケーションの体験をするということで、そのために先般はウェブで呼びかけをしたということでございます。

8ページになります。これまでは、PR動画や、ホームページを作りました。また秋になりますけれども、「子連れでワーケーション」ということで、お子さんがいらっしゃるとなかなかワーケーションといっても行きにくいということで、こういった時にお子さんはお子さんで、こちらでしっかりとお預かりすると。親の方はその間は確実にワーケーション、仕事をしていただくと。その時にはもちろん海もありますし、また山をお子さんに活用していただくと。そういった意味で、親子で来られるワーケーションというものを企画しております。

最後に9ページでございます。ワークスペース、それからバケーションコンテンツ、これをどんどん事業者の方々と連携していこうということで呼びかけをしております。そしてやはり場所があるからワーケーションが成立するということよりも、来て楽しいと。様々な選択が出来るということで、初めてワーケーションの成果も上がってくるものだというふうに思っております、官民連携でワーケーションを進めていきたいと考えているところであります。以上です。

#### 【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

有難うございました。続きまして、三浦市の吉田市長、お願いいたします。

#### 【三浦市長】

三浦市では、官民連携の取組みは、主に子育て賃貸住宅等整備事業と、市民交流拠点整備事業、これが現在進んでおります。

資料の2ページでございます、子育て賃貸住宅等整備事業でございますが、三浦海岸の駅の近くでございます、南下浦市民センター用地に、市民センターや図書館、出張所の機能ですとか、子育て世代向けの賃貸住宅をPFIの手法により整備するというものでございます。

三浦市として、新しい人の流れを実現するというので、転出抑制、定住促進を図るということで取り組んでおります。

3ページをご覧くださいと思います。市民交流拠点整備事業でございます。引橋というところがございます、元県立三崎高等学校跡地を、市民交流拠点として整備させていただいております。令和元年6月に、大型スーパーのベイシアと、三浦市民交流センターが民間事業者により整備されています。また残りの土地について、図書館や市役所など、公共施設と民間施設からなる市民交流拠点を民間事業者と共同し、整備する手法でございます。本年度は、国土交通省の官民連携支援事業の補助金などを活用して、事業手法やスキームなどの整理に取り組んでいきます。先ほどお話しいたしました三崎漁港のグランドデザインなども官民連携の事業として取り組んでいるところでございます。老

朽化した施設のリニューアルや、様々な施設の整備につきまして、やはり三浦市の場合、財源も乏しいということで、官民連携事業を推進する必要がありますので、様々なニーズをきちんと検証しながら官民連携で取り組んでいるところでございます。

4ページになりますが、今後「都市近郊リゾートみうらの創生」ということで、京急グループとの官民連携によるエリアマネジメントの実現を進めてまいります。みうらの創生というのは、三浦半島ということでございます。三浦市内では、拠点整備として、城ヶ島エリアですとか油壺地区エリアや三浦海岸駅近くのエリア、こういったところを、地域活性化に向けた多世代共生のまちづくりを京急さんとも連携しながら取り組んでおります。

ご存じのとおり、京急さんが令和2年10月に発足いたしました、三浦コクーンファミリー、これには神奈川県や三浦半島4市1町も参画していただいております、80以上の団体が参加しております。一方で、三浦市では今年の5月に、新たに「三浦市観光振興ビジョン」というものを策定いたしまして、三浦市ならではの6次経済の構築を目指しております。三浦半島内での官民連携は、今後加速していくと思っておりますので、ぜひ皆様とのご協力によりまして、三浦半島を盛り上げていきたいと思っております。以上です。

#### 【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

有難うございました。続きまして、葉山町の山梨町長、お願いいたします。

#### 【葉山町長】

皆さんこんにちは。すみません遅くなりまして。小野さんに代わりまして、私の方で意見交換の、エリアマネジメントについてご紹介していきたいと思っております。官民の連携ですけれども、民は本当に住民の方々の官民でございます。皆さん1ページをお捲りください。

皆さんの地域でも課題になることが多いのではないかと思います、開発です。葉山町では、捲っていただきました下のページをご覧くださいと、開発によって反対運動、また訴訟になるケースもありまして、下の方にもありますけれども、2019年に町が勝訴で終わりましたけれども、訴訟もありました。下山口のマンションの開発反対運動でした。それ以外にも様々、反対、どうしても開発に関する場合はもう運動として、議会も絡めて、最後は公聴会をし、それでも不満が残ったまま、やむなく事業者がそのまま開発に入っていく。行政にも非常に強いパワーが、いろいろなパワーが押し寄せ来ます。皆さんも十分ご経験だと思っております。これに向き合っていくマネジメント、町もすべてで成功しているわけではなくて、そんな事例はないんですけれども、いくつか上手くいっているケースもありますので今日ご紹介したいと思います。

またもう1枚お捲りください。そもそもなぜ、地域住民と我々がこんなに紛糾しなければならないのか。ここに図で書いたのですが、私たちは地域住民と事業者の真ん中にどうしてもいてしまう、許認可権者となります。この私たちが持っている許認可が何かというと、下ですね、釈迦に説法で大変恐縮ですが、都市計画法を一つ引き抜けば、基本的には管理者と協議したうえで同意を得なければならない、協議・同意レベルでしかないこと。また知事におかれましては、一応条件がそろっていれば許可しなければならないということも方向となっていることから、憲法の29条財産権も背景にあってですね、非常に事業者、施主さんが強い葉山の開発、失礼いたしました、日本の開発ですね。

1枚お捲りください。ここで葉山がこれまで取組んできていて、まだまだ途中ですが、法や条例の範疇を超えていくことはできないだろうかということです。ここにエリアマネジメントがあります。

下のページをご覧ください。葉山の都市計画課の窓口で、開発の案件が入ってきますと、その話を事業者さんに許可をもらって、その地域の方に先に情報を伝えます。つまり事業者さんが土地を購入して、莫大な借金をして利子が付く中で開発をしたいという焦りのある前、検討段階でまだ購入する

前に、こんなことを考えているのですがどうでしょうと、地域と話し合ってもらうことを今進めています。

1枚お捲りください。②です。実際に購入してしまって、開発するぞというふうに事業者側が提案してきた時には、町の方から地域の方々に憲法の財産権、都市計画法のあり方、また建築基準法や町の持っているまちづくり条例について、地域住民に説明をして、一定のナレッジをあげてもらいます。一方、議会にも、私たちの方から、こんな開発で、若干揉めそうだということを常にお話するようにしています。

そして3点目、下のページをご覧くださいますと、施主さん、事業者側には、こういった話をしていますよということ、また地域住民と直接的に話してもらえるような可能性も、事前に説明をしています。これは、ポイントとしては、いろいろな反対運動の方ではなく、本当にマンションならマンションを建てる周辺のこれから町内会やご近所さんとなっていく住む方が、地域と接触する方々に、事業者さんと引き合わせをするようにしていきます。

1枚お捲りください。これらは、地域に開発に向き合ってもらい、支えるという取り組みですが、①番から③番を通じて、時には、購入前であれば地域と話し合っただけで開発をやめることも多々あります。それでも購入して開発にかかった場合には、地域住民等としっかりと話し合い、また議会の意見をしっかりと聞くということで、許認可の話になる前の、前捌きに今力を入れることで大きな紛争とならない、一定の理解が双方に生まれる段階で進んでいくということが出来始めております。

これは先程の話の都市計画法や建築基準法の話外の話ですので、構図としては直接、地域の方と事業者さんが話し合う。そこに議会が町の意見として、また時に私も行政側から、葉山ではそういうものはなるべくやってほしくないんだという意見をしながら、事業者さんと施主さんに理解を得られるようなことを重ねております。あくまで法律外という認識で、お互いに立たないと、それは違法な話ではないかと硬直することがあるのですが、ここは重要なポイントです。

それが本当にできたのかということが、次のページです。葉山では御用邸の北側、特に別荘が多かった一色の地域におきまして、次のページのこの第5町内会という町内会がありまして、まちづくりに関する協議会が立ち上がっておりまして、町と非常に密な連携をとっています。この協議会が先程の話のように、都市計画課の窓口が開発に近い案件が入ったらすぐ連絡をして、直接会ってもらうということをしたり、様々なやっていただいておりますことで、またもう1枚お捲りください。

この御用邸周辺の、魅力ある風景、佇まいを残していこうということで、例えば県が所有の三ヶ丘山がこの北側にあるのですが、三ヶ丘山の稜線、角度を超えないような建物の屋根にしてほしいとか、セットバックをして地域の方が歩きやすいようにしてほしいとか、従来町が、道路のセットバックは町がすべきことだと思うのですが、地域の方がこういった知識をお持ちですので、これは出来なにかあれば出来ないかと様々な提案をして、対案をもって開発に合意をしていくような動きが取れました。右下の有料老人ホームも地域にあります、大きく前面道路から後退をして、こういった憩いの土地を作ってもらうことも、事業者側が事前に話をしていて協力を得られたということにもなります。

またその他の地域でも、こういった取り組みが上手くいっている事例もあります。それが下のページで、下山口地域では、パナホームのマンション計画があったのですが、この地域の方々と行政と議会と連携をすることで、計画そのものを戸建てに変更してもらいました。またその下も、これは議会に陳情が上がって、議会の議決で改善を求めるものもあつたりしたのですが、もともとダイワハウスさんが老人ホームを建設しようとしているところが、そのまま既存施設のリノベーションという形で福祉施設へ変わることが決まっております。このように、なかなかハードルが高いのですが、葉山町といたしましては地域の力、地域の自治会や町内会の力と、町行政と議会が、法律の範疇の許認可という枠ではないところで、いろいろな話をする中で少しでもより良い開発が出来ていければという活

用をしているご紹介でした。

次、2番目にあります、ガラッと話が変わりますけれども、古くは国営公園構想として、様々な活動をしていました。この話について、昨今動きがありましたので、ご紹介したいと思います。

実は葉山町の5分の1、大体山間ですが、ここは大和ハウス工業さんが保有している土地でして、横須賀市さんや逗子市さんにもかかっているところです。このページの下に、これまで、交流地点の国営公園構想の発足から16年、神奈川県は県土整備部長が「近郊緑地特別保全地区」に指定しますよというふうに回答していただいていることもありました。その後も縷々、活動があったのですが、なかなか活動に対して、私たち町も、県も、支援が出来ない、今後どうしていくのだろうと気になっておりましたが、1枚お捲りください。

最近、大和ハウスさんと直接、こちらは町の環境団体とか商工会の青年部と連携をして、山に入らせてもらって、私たちの里山として、保全、またここで学びを得られるような教育の場としての活用について、今進捗があります。私たちとしても、この下のページで、大和ハウスさんの先方、開発部長ですが、執行役員の方と、また先日この6月には大和ハウス工業さんの社長さんともお会いをして、この地域の保全と、これからについて議論を交わしました。最後のページにイメージ写真がありますが、大和ハウスさんとしても、会社のCSRも含めて、ここにいい環境を残していきたいという気持ちがいっぱいあることも確認できましたので、我々これから将来に向けて、どうやってこの里山を守っていくかということについて直接的な議論を重ねて活動を行っていかうというふうに思っております。決して町が何かを行うのではなくて、この写真の左上にあるように、多くの町民の方々、自然保護団体の方々が入っていただくことでいい山が守られていく、活かされていく活動が出来ていくのではないかと今考えているところがございます。以上、葉山町からは2点のエリアマネジメントについてのご紹介でした。

#### 【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

有難うございました。ここからは発表いただきましたテーマにつきまして、自由な意見交換とさせていただきますと思います。ご発言ありましたら、挙手をお願いいたします。

#### 【知事】

はい、お疲れ様でございます。お伺いして、最近やっぱりこのコロナ禍で、それぞれの地域になかなか出向く機会がないので、お話を聞いてそんな風になっているのだと、ここですごく発見をして、わくわくする気がいたしました。

一つ、横須賀市さんがDeNAさんと組んで、ああいう風にまちづくりを、そういうふうに主体的に進めているといったこと、こういう風に展開しているんだということは、今この場で資料を見せていただきながら、発見をしたという、そういう感じでもありました。それぞれの地域で活性化に向けて、コロナ禍で様々な制約がある中で、御尽力されている姿が浮かび上がって、非常に心強く思ったところでありました。

三浦市さんの二町谷のところのああいう絵を見ますと、こんな素晴らしいところになるのかと。観光の核づくり事業をやってきましたけれども、三崎・城ヶ島、これが三つの、新しい観光の核事業に選ばれたわけでありましたけれども、それが起爆剤となって、ついに城ヶ島の先端のホテルも高級旅館がやってくることになり、商店街も生まれ変わるようになりますし、そしてこの二町谷も高級リゾートになってくるというような形で、どんどん活性化してくる流れができあがってきているということは、本当に、三浦半島全体が活性化していく上でも、先端部分が輝いてくるということは、非常に大きなことになるのかなという風に思ったところでありました。

そういったところで、様々なところで、それぞれの地元なりの工夫をされているということで、葉山町の山梨町長のこのお話は非常に興味深く聞かせていただきました。行政としてやっていくために、必ず地元の反対は起きてくるわけですが、それを、中国のようにと言ったら怒られちゃいますけど、強権的にガンと進めていくのではなく、皆さんとの合意を取りながらしっかりやっていくという中で、どんな形でやっていくのかという中で、非常に極めて、ある種具体的な形で展開されていて、地元の御理解を得ながら進めていくという、非常に素晴らしいことをやっていらっしゃるのだなといったことを思って、これは本当に全県展開していくべきことだなと思いました。

それからワーケーションということで、まさに三浦半島のパワーを全開にさせているのだなということをつくづく感じました。コロナ禍で、新しい生活様式という中で、わざわざ会社に行かなくてもいいだろうという流れができあがった中で、在宅での勤務といったこと、そうしたら、在宅だけではなくて、むしろ遊びの感覚と一緒にいった形での働き方が一気に進んでいくといった流れになれば、都心から近くて、海の魅力、緑の魅力、そして食の魅力に溢れている三浦半島は絶対大きな力になるだろうといった中で、そういった流れがしっかりと起きているといったことで、これは本当に、新たな活性化に向けて進んでいく非常に大きな力になるだろうなと思いました。

そういった様々な皆様の挑戦が前へ前へ進んでいけばいくほど、やはり道路の問題というのは、やはり非常に大きな課題だなと改めて痛感しました。

私が知事になる時、「マグネット」という言葉を使いました。マグネット神奈川を目指そうと言った。なぜマグネットという言葉を使ったかという、私が知事になる前、ジャーナリスト時代からずっと思っていたことがありました。地域活性化のために何が大事なのだと思った時に、当時出てきたのは、知事になる前ですよ。神奈川の話ではないですよ、全国の話ですけども、道路作ってくれて話がまず来るんですね。道路作ってくれ、それから新幹線作ってくれ、駅作ってくれ、新幹線の駅作ってくれ、この手の話がまず出てくるというのが常道でありました。私は全国ずっと津々浦々見て回っていたんですけども、じゃあそういった地域を再生するために、念願の道路が開通したところは本当に活性化しているのか、新幹線の駅ができたところは活性化しているのか、つくづく見て回りましたが、それで成功しているところはほとんどないと言ってもいいくらいでした。

そうではなくて、先に地域の魅力を高めることが大事なのだと。地域の魅力を高めたらどんな辺鄙なところでも、人は野をかき分け、山をかき分けやってくる。引き付ける力を持つことが大事なのだ、それがだからマグネットという意味だったというわけです。ですから、神奈川というのも、神奈川の中においてもやはり引き付ける力を、それぞれの地域が持つことが大事だということを、このマグネットという言葉に込めた思いだったわけですよ。

そんな中で、この第4の観光の核事業といったもの、まさに地域の魅力を自分たちでどれだけマグネット力として高められるか。これが先ですよという話でずっとやってまいりましたが、見事にそれぞれの地域がそれぞれの地域らしさを、自分たちの地域らしさは何だと問いかけが始まっていて、それを様々な形で展開するようになっていったということ、これがどんどん進んできているということが改めて確認できたというわけでありますね。

そうしたら、やはり、これは道路だと。これは声高らかに言わざるを得ない状況に来ているなというふうに思っていますね。それだけ魅力的なところがあるので、しかしそれに行こうと思った時に大渋滞に阻まれて到達できないといった状況の中で、どうするのだ。やはりこの、血流の流れをつくるような、そういったものをしっかりと整備しておくことが、今こそ必要な時に来たのだなといったことを改めて痛感した次第であります。

そんな中で、また話は戻るのですが、じゃあその時に道路を作ると。その時に、地元の住民の皆さんがどんな反応をされるかといったことですよ。そこはしっかりと御理解を得ながら、様々なお立場の方たちがいらっしゃいますから、そういった中で合意を取りながら、繋がるべき道路、さらにこ

の三浦半島全体を活性化できるような道路を、どうやって作っていくのかといったことを、本当に真剣に取り組んでいかなければいけない。これは大きな課題だというふうに痛感をした次第でありますね。そのためにはやはり、地元の皆さんと、県がまさに一体となって、そしてあらゆる事業体と一体となって、御理解を得ながら、この道路が繋がることによってどんな未来が開けるのかといったことを、しっかり御提示するような形にして、きめ細かい作業をしていくことが必要になってくるのかなとつくづく思った次第でありました。

そんな中で、今日のテーマがエリアマネジメントといったことだったので、そういう視点からのお話になりましたけれども、今日ちょっと私が聞いていて、いつかどこかで出てくるかなと待望しながら待っていたけれども全く出てこなかった言葉が一つありました。それは、「未病」という言葉ですね。

これはかつて、三浦半島は未病半島プロジェクトと言ってくださって、それぞれの地域で三浦半島の地域の持っている自然の力や食の力を上手く使いながら、未病改善の半島なんだ、ということや打っていきこうということで、非常に私も心強く思っていたのですが、今日はたまたま未病という言葉が全然出てこなかったのは、非常に寂しい思いをしておりますですね。この言葉を、私自身が後退させたというつもりは全くなくて、やはりコロナ禍でこれまでやってきた未病改善で、様々な展開をして、いい感じできたなと思ったものを、ちょっと展開できなくなっている部分も確かにありますね。しかしですね、国連の国際会議でもあえて訴えたのですけれどね、国連、UNDP（国連開発計画）がSDGsに関する国際会議をWEBでやったのです。その時アピールしたのですが、「コロナ禍において、我々は、未病改善ということがどれだけ大事かということを改めて痛感したんですよ」と申し上げました。それは、この我々が言っている未病改善というのは、最先端のテクノロジーと融合させていくということですね。だから未病指標というものも作りました。未病指標を作ると、自分の未病状態が数値化されるわけですよ。0と100の間で。数値化されたらば、それをもって未病改善のために自分で行動変容を起こしていくと。この未病コンセプトで一番重要なポイントは二つです。一つは、自分の体の状態、未病状態、健康状態を見える化して、自分ごと化するということですね。そして自分ごと化した時に、それによって行動変容に繋げていく、この大きな二つが未病コンセプトなのですよという話をしたわけですね。

コロナ禍において何が大事か、一番、我々が分かったのはまさにこのことですよ。コロナを自分ごと化しなければいけない。これを今、我々、一生懸命キャンペーンをやっている、御理解を得ようと思ってアピールしているところは、まさにそのことですよ。私は若いから関係ないと言っている人はたくさんいたわけですよ。そうではないんだ、自分ごと化してやらなければいけない、その時にどうすれば感染をするのかといったことをしっかり理解した上で、それをそうならないように自分で行動を変容する。これが大事だと申し上げてきたわけでありましてね。だからこそこのコロナ禍に向き合うために、この未病コンセプトが一番実は大事なことですよという話もしている。これは、国際会議だから、皆さんずいぶん大きく、会議に参加してくださった方には受け入れられたといったことであります。しかもですね、また違った側面もありまして、アメリカなんかでは、まだまだコロナ収束とは言えないですけども、日本に比べれば緩やかになっている、ワクチンを接種したからだと言っていますが、60万人を超える人が亡くなったという。どういう人が亡くなったかということ、最初は貧困者が亡くなったかと思ったが、決してそうではなかった。生活習慣病、こういう人たちが重症化して亡くなったという事実もあるわけですね。そういった側面からしてもやはり、このコロナ禍で、我々は、感染症といったものは、我々高齢化で向き合っている慢性型疾患とは違いますけれども、しかしコロナから学んだことは、やはり日頃から未病を改善して自分を健康にしていこうという、この日常的な努力が大事だと。食だ、運動だ、社会参加だ、コミュニティだ、こういったものが大事だということを改めて浮き彫りになっているわけでありましてね。このwithコロナ、postコロナと向き合

う中で、三浦半島はその原点をやはり忘れてほしくないと思っただけ次第でありました。それを感じたので、率直にお話しさせていただきました。

それとこれまで振り返ってみて、三浦半島活性化プロジェクトをやっている中で、様々なアイデアがあって、様々な魅力的な行いがあった、アプローチがあったのですが、「三浦半島はイタリア半島」プロジェクトはどうなったのでしょうか。これを、私は非常に魅力的なものだと思っていたので、三浦半島はイタリア半島に形が似ているので、三浦半島全体を一つのコンセプトとしてイタリア半島になぞらえて、いろいろな形で連携していこうという話があった。実は私の友人で、中学高校の同級生で、イタリアにずっと住み着いている男がいて、この間彼がたまたま日本に来た時に三浦半島をずっと回ってもらって、そして様々な提言をもらって、これは面白いと言ってきて、イタリアの情報をどんどん送り込んでくるからと言ってきてくれた中で、このコロナ禍で動けなくなったというのが事実だったんですけども。ああいった、これまでやってきた魅力的なアイデアをその場限りにはしないで、しかしやるならやるとして、どんな感じでやるかという、そういう展開というのはやはり必要だというふうに思った次第でありました。私はずっと聞いておったわけですけども、こんなことを感じた次第でありました。有難うございました。

#### 【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

他にご意見があれば、挙手をお願いいたします。

では私ども、イタリア半島プロジェクトにつきまして、当センターは深く関わっておりますので、今の状況についてお答えさせていただきたいと思っております。イタリア半島プロジェクトにつきまして、今、当センターと横須賀商工会議所と、主催をされております長谷川先生で、来年度に向けて今事業の構築を図っているところでございます。本来であれば、昨年度、今年度とイベント等の計画もあったわけですが、コロナ禍の影響でそこまでは出来なかったということで、今、来年度に向けて計画を進行中というところでございます。計画がまとまりましたら、各市町の皆さんにもいろいろご協力いただいて、三浦半島全体のプロジェクトにさせていただきたいというふうに思っております。イタリア半島プロジェクトについては以上でございます。

他にご発言がありましたら、お願いいたします。

#### 【葉山町長】

能勢さんお疲れ様です。葉山町です。葉山町はずっとコロナとイギリスチームで、頭がいっぱいだったもので、来年からイタリアに力を入れていくので、よろしくお祈りいたします。

#### 【横須賀三浦地域県政総合センター所長】

他にご発言がありましたら、お願いいたします。よろしいですか。

知事、最後に何かございますか。

#### 【知事】

本当にお疲れ様でございました。こういう形でのお話し合いができたことは、とても良かったと思っております。やはりコロナ禍で様々な制約はされているけれども、その中でやはり確実に前へ進んでいるといったことがあると確認できただけでも、非常に大きいなという風に思いました。出口のことを言うと、まだ皆さんの気持ちに反すると言われてしまうかもしれませんが、ワクチンこれだけ広がってきているわけですから、確実に出口はあるわけですね。ですから、出た時にはスタートダッシュよろしく、三浦半島をガッツと活性化できるよう、一体となって進んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお祈りいたします。今日はありがとうございました。

## 5 閉会

それでは、以上をもちまして、令和3年度横須賀三浦地域首長懇談会を閉会とさせていただきます。本日はお忙しい中、長時間にあたり誠にありがとうございました。